

# 番組審議委員会議事録

株式会社 衛星劇場

1. 開催年月日 平成13年10月5日（金） 12:00～13:00
2. 開催場所 株式会社 衛星劇場 会議室
3. 委員の出席 委員総数 7名  
出席委員数 5名（小山観翁、山内静夫、中村芝翫、  
堀江ミエ子、田中康義）  
欠席委員数 2名（小林和夫、伊藤信太郎）
4. 放送事業社側出席 5名（石川富康[代表取締役・副社長]、須田真司[専務取締役・  
営業担当]、山崎克巳[取締役・編成担当]、小山宜康[取  
締役・広報担当]、長谷川一郎[取締役・営業担当]）
5. 議事の概要
  - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状報告
  - ・衛星劇場の出資作品について
  - ・CS110度問題について
  - ・その他
6. 議事内容
  - 現状報告
    - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの加入者の推移
    - ・上記加入者に関する分析の報告
  - 出資作品について
    - ・衛星劇場の出資作品の説明。
  - CS110度について
    - ・弊社が参加していくことを報告。しかし、まだ詳細が決定していないために  
今後はどう対応していくか現時点の状況を説明。

(議事詳細)

石川副社長：本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

では、衛星劇場の現状から説明させていただきます。

まず大きな問題として、作品の枯渇があげられます。日本映画専門チャンネル、東映チャンネルなど、邦画チャンネルが増えたことによって、東宝、東映などメジャー会社の作品が確保しづらくなってきています。それに対応すべく編成をしていかなくはなりません、松竹が邦画をつくらなくなってきて、相変わらず新作が確保しにくい状況です。

そういった状況のなかで、現在製作出資に力を入れています。出資といっても全体の20%くらいの出資で、映像事業で利益をとると言うよりは、CS放送権を得ることが目的です。年内では、『ターン』、『ピストルオペラ』、『ハッシュュ！』などが公開予定です。さらに金大中氏の拉致問題を扱った『KT』という作品も90%出来上がっていて、収支も期待できる作品です。その他、『白い犬とワルツを』、『MR. ROOKIE』などに出資しています。国内の映画だけではなく、『JSA』『リ・ベラメ』など韓国、香港の映画にも出資しています。

またホームドラマの方は、プラスで推移しているので、赤字が減ってきています。古いドラマが多いので、視聴者の方も30～40代の契約が多くなっています。今後はベーシックチャンネルがパックを作るので、それがどう動くかによってまた加入者数も変わってくるでしょう。ただ観たくないものが沢山入っているパックに、あまり期待するのもどうかと思っています。

中村委員：かなり苦しい状況にあるようですが、そんな中で視聴者の要望にはどのように対応されているのでしょうか？

石川副社長：「リクエストアワー」という枠を設けて、できるだけ多くの視聴者の要望に答えていきたいと思っています。弊社のお客様は、ベーシックな人が多く、一度加入するとなかなか止めないというありがたい方もたくさんいらっしゃいます。そんなお客様には、リクエストという形で応えていくようにしています。ただ日本映画は、素材の管理保存状態があまりよくなく、観たいという希望になかなかお応えすることができないこともあります。

小山委員：110度という次の衛星が出てきますが、衛星劇場では今後どういった方向に進

んでいくのでしょうか？

須田専務： 一応、110度にも参加していく予定であります。位置的にBSデジタルに近い衛星ということで、互換性があるというメリットがあるので、今後にも期待もできます。しかし、認可が下りたとはいえ、後はどうなるのかまだ分からないのが現状ですね。

今、日本人のテレビを観る時間が減ってきています。携帯電話やパソコンでいろいろなことができるようになったために、家にいてもテレビを観なくなっているのです。テレビ以外のものでスカパーと同じような番組を放送することにより、より枝先が細くなっていきますね。そういうこともあってスカパー自体の加入者も頭うちになってきています。これは、今後の弊社にも大きく関わって来る問題です。

ケーブル局サイドとしては、弊社の番組編成はどう思われますか？

山内委員： 衛星劇場の番組を観ていると大きな目玉がない気がします。お客様の声でもそういったことが目立ってきています。エンタテインメントの大作があることが望ましいですね。

石川副社長： 目玉になるようなものは、ブロックブッキングでないとなかなかそういったものは出てきにくくなっていますね。『男はつらいよ』がテレビ東京に出たことで、より弊社の番組内容が悪くなってしまうのではないかとということが心配です。

視聴者の方の傾向はどうですか？

堀江委員： 私は調布ケーブルにいるのですが、衛星劇場の視聴者は、惰性で観てるところがあるようですね。チャンネルをつけた時に、面白いものが放送されていれば、そのまま見続けるようです。見出したらそのまま最後まで観てしまうような放送をすることが理想なのではないでしょうか。

山崎取締役： 新しい作品はもちろんですが、古い作品もできるだけ観るようにして、内容の面白いものをセレクトして放送するよう努力しています。

田中委員： 現在、製作出資した『ピストルオペラ』などの興行予測はどうですか？またヨーロッパのクラシックはしないのですか？

石川副社長： 単館の作品でも『シュリ』のように10億以上の興収を期待できるものもあります。ただ全国配給の方がやはりいろいろな面で期待できるので、弊社で放送する新作も、そういった作品の方が望ましいのは確かです。PPVでもすごい反響のあった『ホワイトアウト』クラスの作品がベストです。  
もう一つのご質問ですが、ヨーロッパのクラシックも放送しています。数は少ないですがそういった作品のファンも確実にいるので、毎月放送するようにしています。そうは言っても、やはり邦画の目玉になるような作品が欲しいですね。小さなマーケットの中でどうやって視聴者を確保するかが、これからもっと大事になっていきます。

今後とも衛星を取り巻く環境は、一段と厳しくなっていきますが、審議委員の方々の貴重なご意見を活かして、より一層頑張っていきたいと思っておりますので、何卒よろしく願いいたします。

7. 審議期間の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特になし

8. 審議期間の答申又は意見の概略を公表した場合におけるその公表内容、方法及び月日

特になし

9. その他の参考事項

特になし